



ウイズレポート

Vol. 05

一般社団法人くらしサポート・ウィズ 東京都新宿区大久保2-3-4 出光新宿ビル4階 TEL:03-6205-6719 FAX:03-3200-6134 https://www.kurashidial.or.jp/ 2022年10月発行

2022年度上期は1,081件の相談がありました 対前年度上期比 75.5%です

上期は2022年度の基本方針に掲げている「協同のネットワーク」を意識した事業運営に取り組みました。相談事業では「くらしの相談ダイヤル」の件数は減りましたが困難ケースの相談が増え、弁護士相談等へのつながりを意識した対応を進めました。若者支援事業ではインターンシップでの協同組合同士や学生との運営構築が進み、また奨学金伴走支援事業では伴走支援団体の増加に伴うネットワークづくりをパルシステム連合会と共に着手しました。居住支援事業ではくらしサポート・ウィズの居住支援と全国居住支援法人協議会との連携が進み、相談対応の充実と研修会や調査事業（国土交通省補助事業及び公益財団法人車両競技公益資金記念財団支援事業）等が活発に取り組まれています。

2022年度は主体事業を「相談事業」「居住支援事業」「若者支援事業」の3つの柱に整理しました。

若者支援事業

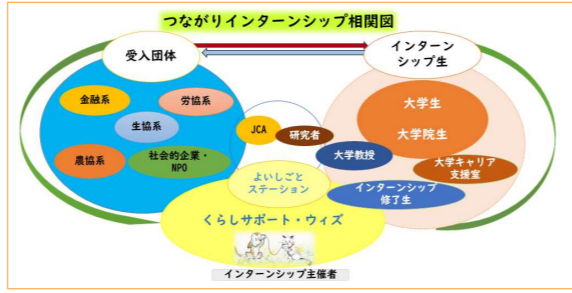
若者が自分らしく、社会で活躍するために、様々な取り組みで応援しています

つながりインターンシップ@協同

くらしサポート・ウィズ主催事業

2014年から実施している「協同を学ぶ」インターンシップは今年で9年目です。学生が協同組織で働く人たちと直に触れ、考え、学ぶことを大切にしてきました。受入れる側の学びや協同組織同士のつながりにも一役買っています

今年度も修了報告会以外の企画はオンライン中心となりましたが、体験実習では対面とオンラインを組み合わせる団体も増え、「生協の配送、大変だった」「若手就農者にインタビューした」など学生からの報告もありました。報告会では、実際に会って話すことで、オンラインとは違う、温かいつながりを感じる場になりました。



交流会と報告会は今年も旧・現インターン生計4名が企画運営を担当し、司会、進行も学生が行いました。

*人とのつながりこそが、豊かな人生や人間らしい生き方につながるのだと感じました。

*インターンシップを通して、協同組合間でのつながりを感じました。

*ごちゃまぜにつながることの大切さを実感しました。

つながりインターンシップ@協同 紹介動画はこちら



学生の感想

*何のために働くのか、どういった働き方をするのか、自分の中で問いかけていこうと思いました。



2022年度修了報告会

12大学から学生19名が参加!

受入13団体(農協、生協、信用金庫、労働金庫、労協、社会的企業)を6つのグループに分け、学生チームとマッチングし、7月~10月の期間でインターンシップを行いました。(協力:大学教員、シンクタンク研究員、日本協同組合連携機構)

共催の「よいごとステーション」とは、協同組合バンク運営協議会を通して協同組合間協同の人材育成の基盤形成に向けて連携も進めています。

奨学金伴走支援

「パルシステム給付型奨学金制度」を事務局として支えています

「パルシステム給付型奨学金制度」では、学びの意欲をもちながらも、家庭環境や経済的な理由で大学への進学や就学の継続が困難になっている若者を対象に、月4万円を給付するとともに、生活面や精神面の伴走支援、社会学習の場への参加などを提供しています。現在18名の奨学生を応援しています。募金では伴走支援者も支えており、昨年度は5団体だった伴走支援団体も、今期は8団体増え、各地域のパルシステムと連携している13の支援団体が、奨学生の学びと暮らしに寄り添い、将来の自立に向けた支援活動を行っています。

ウィズでは奨学金事務局として、伴走支援団体、パルシステム連合会との間で報告書のとりまとめ、伴走支援団体連絡会議や社会学習参加等の調整を行っています。

パルシステム奨学金制度の特徴である個々の学生の課題に寄り添う伴走型支援を事務局として後方から支えることで、顕在化しにくい学生の生活困窮や孤立など困難を抱えた若者への支援実態を把握していきます。若者が抱える課題を社会に伝えていく事で応援者を増やし、若者が自立しやすい社会にしていけることを目指しています。



パルシステム給付型奨学金

◆現金またはポイントで募金できる「いつでも募金」

◆サポーターとして毎月の応援募金で支える「奨学生応援サポーター」

↑これらの募金で、2020年度2名、2021年度4名 2022年度12名の学生を応援中



募金受付中!
※パルシステム組合員のみさまに支えていただいています

首都圏若者サポートネットワークとの連携事業

共同事務局として、主に就労キャリア支援、政策提言に関わっています

「社会的養護下に暮らす子どもたちなどの多様な自立を、伴走者と共に支援することで、自分の人生を切り開く一助とすること」を目的に活動しているネットワーク組織です。

第5回若者おうえん基金

若者おうえん基金は、若者に寄り添う伴走型の支援をおこなっている「伴走者」たちの活動を助成することで、社会的養護のもとで育った子ども・若者たちをサポートしています。

11月27日までクラウドファンディング実施中!



就労キャリア支援

協同組合への体験就労のマッチング、就労支援をしています。ウィズはコーディネーター業務を受託。上期は3名の応募があり、保育園や生協のお店、配送センターなど4件の体験就労をコーディネートしました。

今年度は神奈川・埼玉でのプログラム展開にも着手しています。6月には受入事業者向けの学習会も開催しました。

保育園の仕事がこんなに忙しいとは思わなかったです。でも、子どもの笑顔を見ると頑張れました。とても楽しかったです。



政策提言

政策提言ワーキンググループが中心になって社会的養護の若者支援に携わる現場の皆様の声を集め、2021年から政策提言に取り組んできました。その結果、2022年6月8日に児童福祉法改正法が国会で可決され、私たちの政策提言の内容が一部、反映されました。

施行される2024年度までに改正法に基づく新たな制度の詳細が策定されるため、政策提言書をまとめ、6月に厚生労働省子ども家庭局長に提出をしました。4月の支援団体意見交換会には全国から約100名の参加がありました。

居住支援事業

住まい探し & 住まい活用に困った方のお手伝い

東京都知事指定第22号 住宅確保要配慮者居住支援法人

居住支援相談 2022年度上期49件

うち、住まい探し相談は43件あり、民間賃貸住宅等への入居が決まった方は4件でした。

入居につながったケース

高齢の父親と障害のある妹のダブルケアをしている方からのご相談。ご相談者は無職で収入がないこと、高齢者と障がい者が同居しているといった条件もあり住まい探しが難しく、他団体への相談でも断られていたケースでした。時間はかかりましたが最終的にはセーフティネット住宅に登録している大家さん所有の未登録物件を紹介し入居に結びつきました。

居住支援セミナー 開催

「住まいの確保で困っている人いませんか？」

9月3日にオンライン（同日アーカイブ配信）で実施しました。申し込み14名。

参加者アンケートでは、「東京にこのような支援があることを知らずに悩みながら暮らしていました。今回のセミナーの情報は心強く感じました。」

「身近に困っている人がいた時に、このような情報があれば少しでも手助けができればいいと思います。」などの意見がありました。

くらしサポート・ウィズができること

- ※生活の困りごとを解決し、暮らしやすい環境に貢献します。
- ※暮らしにくい環境を解消し、暮らしやすい環境に貢献します。



一般社団法人全国居住支援法人協議会 事務局

居住支援法人の活動支援や国・行政機関と課題協議

理事会などの組織運営に加え、居住支援研修会等の国土交通省補助事業の計画を着実にすすめました。また、居住支援法人相談窓口には、上期73件の相談があり、ウィズの居住支援実践からの知見を活かして対応し、必要に応じて全国の居住支援法人や行政などと連携し、ネットワークを力を活かしました。

居住支援研修会

9月26日、10月3日、10月17日、10月21日の4日間、のべ1073名の参加がありました。新たな住宅セーフティネット制度がスタートして5年、居住支援法人は全国で589団体（9月30日現在）が都道府県より指定を受けています。取り組み期間や対象者の違いにより求められる研修ポイントも多様です。オンラインで各日テーマ性をもったプログラムで実施しました。

居住支援法人リーダー研修会

全国3か所の開催に向けて準備を進めています。11月21日石川県、1月16日愛知県、1月27日大分県にて開催予定です。

居住支援法人設立・運営支援 アドバイス事業

居住支援の推進のために、居住支援法人の立ち上げ支援、運営や経営に関する知識や連携づくりに対するアドバイザーを派遣します。今年度は応募15団体から5団体を選定しました。各団体のヒアリング、オンライン交流会等を行います。

居住支援相談窓口

居住支援法人や居住支援に関わる団体のための窓口。居住支援法人や事業者、行政などと連携し、相談対応をしています。上期73件（前年度年間40件）の相談が寄せられました。

研究・調査事業

「包括的居住支援の確立及び実現に向けた調査研究」公開研究会 8月23日「日本の居住支援に他国からの学びを活かす」には117名、9月19日「居住支援の制度確立に必要な政策のあり方と実践からの制度改革への期待」には76名の参加がありました。

「支援付き住宅調査事業委員会」では、支援付き住宅についての調査を進めています。

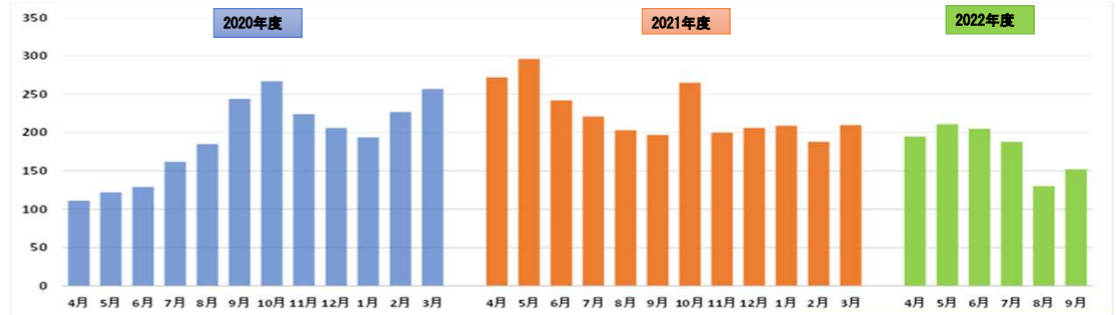
居住支援を通じて安心して暮らせる社会を

会員数は2022年9月末時点で272会員になりました。

相談事業

2022年度上期の相談の内容としては、家族間のトラブルや近隣、仕事や学校関係での問題、自身のお金の管理など、くらしの問題を解決するためにどうしたらいいかわからないという相談が多くありました。また、攻撃的な話し方をする方や、「そちらの窓口は何をしてくれるのか」など相談内容は話さず質問攻めの方、一方的に妄想的な話を毎回される方など、これまでよりも対応に苦慮するケースが増えてきました。この間、新型コロナに関連する相談は少なくなっています。新型コロナの感染拡大以降、月平均200件を超えることも多くなりましたが、2022年7月以降、特にオミクロン株の感染拡大時は相談が減少しました。

2020年度～2022年度上期までの相談件数の推移



こんな相談入っています

職場でうまくコミュニケーションが取れず、居場所がない。

隣のエアコンの音がうるさく、睡眠障害になった。何とかしたいが直接に言いにくい。

定年退職した夫がますます子どもっぽく、横暴になってきている。離婚はしたくないが、別居したい。

息子は借金があり、以前私が数百万円肩代わりして返済した。また同じようなことにならないか不安。

くらしの相談ダイヤル

03-6205-6720

一電話・匿名・無料 一
平日10時～16時30分

『くらしの困りごとLINE相談』
受付中!
ID @941loapn



◆◆◆主催企画 ◆◆◆

◆ひきこもり女子会@パルシステム埼玉

6月開催 15名参加

ひきこもり状態や様々な生きづらさを抱えた女性を対象にした当事者交流会

◆40代限定！オンラインほっこりカフェ～子どもの手が離れたら～

10月開催 4名参加

同世代の方と話しをする機会が減ってしまったという人のために…

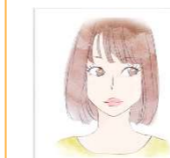
ネットワーク活動の紹介

2021年度からパルシステム共済生活協同組合連合会の「ライフプランニング活動指針」の具現化に向けた「実践タスクチーム」の運営にウィズがファシリテーターとして関わっています。

10月以降、埼玉・福島・千葉・茨城・群馬の5会場でパルシステム組合員のLPA(ライフプラン・アドバイザー)と一緒に学習会「自分らしい前向きな人生を選択するために～離婚について知っておきたい大切なこと～」を開催します。田中記代美弁護士(ウィズ離婚・DV相談担当)からは離婚の手続き等について、LPAからは離婚後の家計や支援制度などについてお伝えします。



新しい仲間が増えました



長谷川 みず穂

6月入職

全居協の事務局を担当しています。以前は、若年女性支援事業に携わっておりました。居住支援については知識不足のため、沢山勉強して住まいに困っている方の方に少しでもなれたらと思っています。趣味は旅行とラーメン巡りです。

ウィズの最新情報は
ホームページをご覧ください
*2022年度リニューアル!!



くらしサポート・ウィズ 検索